

福祉科生徒が車いすバスケットボールに挑戦 ～東京パラリンピックに向けて～

熊本県立芦北高等学校

芦北高等学校福祉科は県南地域の介護福祉士養成校として、基本的な介護技術や知識の習得をとおり、高齢者や障がい者について理解を深める学習を行っています。卒業時には介護福祉士の国家資格を取得することが可能です。

今年、平昌オリンピック、パラリンピックが開催され、日本中が感動の渦に巻き込まれました。また、2020年にはいよいよ東京パラリンピックが開催されます。この機会に、本校福祉科1年生と2年生の42人が、障がい者スポーツの一つである車いすバスケットボールを体験する学習を平成30年3月14日(水)に行いました。障がい者の視点からスポーツの楽しさや難しさを理解し、障がいのある人々が豊かな人生を送ることができる社会の担い手を育成することがねらいです。併せて、車いす利用者の体験談を聞き、実際に車いすを体験することで、障がい者への理解を深め、人権意識を高める学習の機会としました。



当日は、車いすアスリートの先駆者であり、パラリンピック出場経験のある山本行文様と、パラリンピック車いすバスケットボール日本代表選手の平井美喜様をお招きし、生徒たちにわかりやすく車いすバスケットボールのルールや車いすの操作方法を教えてくださいました。生徒たちは実際に車いすに乗り、操作技術を学びましたが、最初は恐怖心のため思い通りに動けず、悪戦苦闘していました。しかし、徐々にコツを覚えると、目を輝かせながら生き生きと車いすバスケットボールのプレーを楽しむ姿が見られました。中には車いす同士でぶつかり合うこともあり、車いすバスケットボールの激しさも体感しました。

車いすバスケットボールでは、ボールを保持したまま車いすを連続3回以上こぐとトラベリングになるそうです。生徒の中には夢中になりすぎてボールを保持したまま連続5回以上こいで前進してしまうこともあり、会場が笑いで包まれる一幕もありました。



プレーをとおして、車いすバスケットボールの楽しさや難しさを理解すると同

時に、スポーツは障がい者にも自己実現の有効な手段であることを実感することができました。生徒たちのキラキラと輝く表情を見ると、将来障がい者のよき理



解者として、豊かな人生を送る手助けを行う姿が思い描かれました。

生徒の感想

最初は、車いすバスケットボールはどんなスポーツなのかと疑問に思いました。バスケットボールとは違い、車いすを使用することで、ターンの操作やボールの扱い方に苦戦しました。しかし、練習を重ねているうちに慣れてきて、とても楽しくできました。障がい者のことをしっかり勉強して、障がい者の生きがいにつながるスポーツの意義を理解していきたいです。(1年生)

車いすバスケットボール用の車いすは、介護などで使う車いすと違ってブレーキがないため、車いすへの乗り降りが難しかったです。方向転換の際に左右どちらのハンドリムを操作して良いかわからなくなる時もありました。重心を移動してブレーキをかける時には、後ろに転倒しないか心配でとても怖かったです。試合では楽しむことができ、貴重な経験をすることができました。(2年生)

車いすバスケットボールは、今までテレビなどで見る機会も少なく、ルールなどもわかりませんでした。実際に体験してみて、障がいのある方々が目指しているパラリンピックはすごいものなのだと思えることができました。健常者より様々な制約がある中、下に転がったボールを車いすの車輪に上手く沿わせながらキャッチしてみて、車いすは選手にとって体の一部になっているのだと思いました。(2年生)

(文責 芦北高等学校)